『臨床事例で学ぶ急性期看護のアセスメント』
お詫びと訂正

下記の内容に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げますとともにここへ訂正いたします。

■p159 の表 3-2-7　発症時期による疼痛の分類
表全てを【誤】→【正】へ差し替え

【誤】

表 3-2-7　発症時期による疼痛の分類

急性疼痛	慢性疼痛
• 通常は 1 カ月以内に消失する • 一般に、外傷や手術侵襲、感染による炎症や腫脹などの侵害刺激によって起こり、原因や発生場所がはっきりしていることが多い疼痛刺激の消失や損傷の治癒とともに消失する	• 3 カ月以上続く疼痛や繰り返し起こる疼痛急性の組織損傷が消失しても 1 カ月以上継続する • 多くは中枢神経系に可塑的変化が生じて発現する神経系の異常

（文献 6 を一部改変）

【正】

表 3-2-7　発症時期による疼痛の分類

急性疼痛	慢性疼痛
・ 強さは軽度から重度までさまざまあり、**回復が期待・予測できる**＊ ・ 一般に、外傷や手術侵襲、感染による炎症や腫脹などの侵害刺激によって起こり、原因や発生場所がはっきりしていることが多く、疼痛刺激の消失や損傷の治癒とともに消失する	・ 強さは軽度から重度までさまざまあり、持続的・反復的で、**回復は期待・予測できず、3 カ月以上続く**＊ ・ 慢性疼痛の多くは、中枢神経系に可塑的変化が生じて発現する神経系の異常である

＊　T. ヘザードマン，上鶴重美．NANDA-I 看護診断―定義と分類　2015-2017　原書第 10 版．原書編集　T. ヘザードマン，上鶴重美．日本看護診断学会監訳．上鶴重美訳．東京．医学書院．2015．472，474．より引用